

---

---

# においと暮らし

福山 丈二（武庫川女子大学薬学部）

---

---

日常生活の中で、ヒトは五感というアンテナを張って暮らしている。この五感の中で、目や耳についてはその役割がよく知られているが、鼻については意外とその重要性が知られていない。そこで、嗅覚のしくみや役割について基礎的な点を解説したい。次に、悪臭公害の現状とその対策法を紹介し、最後に快適な生活環境を創造するために、積極的な香りの活用法について話したい。

**嗅覚のしくみ** 嗅細胞の先端部には嗅繊毛があり、そこに約 1,000 種類の「におい分子受容蛋白」が配置されている。ここが、ニオイのセンサー部である。におい分子が、この受容体に付着すると嗅細胞から脳内の嗅球に神経を通じて情報が送られる。嗅球ではこれらの電気信号として送られてくる情報を選別し、パターン化処理を行っている。そして、整理された情報が脳皮質に送られ、においが識別される。

**嗅覚の特性と役割** 嗅覚は非常に敏感で ppb オーダの非常に濃度の薄いにおいも感知できる。その感度は個人差があり、体調にも影響される。通常、嗅覚は 18 歳頃に完成され、加齢とともに機能が低下する。嗅覚の役割として、「食べ物を探す」「腐敗の察知」「敵からの逃避」「家事の発見」「仲間の認識」「鎮静効果」などあり、原始時代には非常に重要な役割を果たしていた。好きなにおいや嫌いなにおいは、各個人の体験により左右されることが多い。子供の頃には嫌なにおいの食べ物であったものも、年とともに好きなにおいの食べ物に変わることも多い。また、欧米人と日本人では、においの嗜好性も若干異なる。

**悪臭の法規制と脱臭対策** 悪臭防止法での規制方法は、特定悪臭物質 22 物質の濃度規制と臭気指数による規制があり、どちらかを選択することになっている。現在、人間の嗅覚を用いて測定する臭気指数の方式を採用する地方自治体が多くなってきている。悪臭苦情は、大規模な工場からの悪臭汚染よりも、飲食店のような小規模な発生源への苦情が都市部では多く見られる。このような小規模な発生源に対する臭気対策としては、排出口の位置や形状を改善することにより、解決できることが多い。

**身近なにおい** 身近に感じるにおいとしては、ごみの集積場、側溝のにおい、ごみ焼き臭、バキュームカー、ペット臭、電車やバスのおい、自動車排ガス、飲食店からのにおい、公衆トイレなどあり、都市のオフィス街ではビルピット臭気が問題になっている。屋内のにおいは、トイレ、ゴミ箱、台所の排水口、タバコ臭のする居間、下駄箱、エアコンなどで、そのため、芳香剤や消臭剤を使用している家庭が多い。清潔さを保ち、いい香りの花を生けるなどして、嫌なにおいを一掃したいものである。

**香料の日常生活への活用** 芳香剤は、嫌なにおいをマスキングするために用いられ、ゲル型、リキッド型、エアゾール型、樹脂型などの形状のもので、香料としては柑橘系とフローラル系が多く用いられている。また、日常生活用品の石鹸、シャンプー、歯磨き、化粧品にも香料は使われており、ほのかな香りで疲れた心身が癒されている。生活の中にどんどん香りを活かして、豊かな生活を送りたいものである。